

令和8年1月 発行

260号

地域福祉をサポートする 千歳市社協の広報紙

今日から

特集

千歳市社会福祉協議会歴史散歩！



職員一同、地域の福祉向上に努めてまいります
令和8年もよろしくお願いたします

千歳市社会福祉協議会では、「第8次地域福祉実践計画」（令和7年度～令和11年度）に基づき、複雑化・複合化した生活課題に対応できる体制づくりや、地域の多様な機関・団体との連携を深めながら、「ともに生きる豊かな地域社会」を目指して取り組みを進めてきました。本年はさらに既存の相談支援や地域福祉の取り組みを活かし、個別支援と地域づくりの一体的な展開により、支援を必要とする人の把握や多機関協働による社会参加に向けた支援体制の構築を進め、地域福祉のさらなる強化に努めてまいります。



“共同募金”の善意と社協会員の皆様からの会費、愛情銀行への寄付金により発行されています。

最新の情報はホームページでご覧になれます
お使いのパソコンやスマートフォンから検索ください

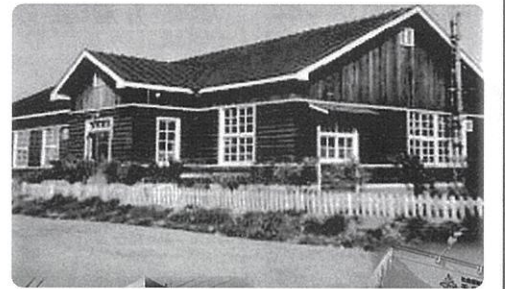
<https://chitose-shakyo.or.jp/>

千歳市社協 検索

社会福祉協議会誕生

戦後、憲法89条の規定により原則「民間の社会福祉事業への公費支出」ができなくなり、公費に代わる新たな財源が必要になる中で、国民がお互いに助け合う仕組みづくりの「共同募金」が始まりました。現在では町内会の協力を得て展開される活動ですが、当時の千歳には町内会組織がなく、民生委員が中心となり募金活動を進めていました。しかし、共同募金の配分を受けるには社協組織が必要ということを知らず、先に使用してしまう事態が発生しました。本来、集められた募金は北海道共同募金会へ返還しなければならなかったのですが、社協が組織されれば返還が不要となるのがわかり、民生委員や北海道社会福祉協議会の支援を受け、1953年9月26日に『千歳町社会福祉協議会』が誕生しました。

「千歳町役場」時代



社協が設立後、当初は役場組織の中に組み込まれて活動を行っていました。それは20年以上続きました。

「千歳市役所」時代



昭和51年に、社協は市から独立した組織となり、福祉事務所内に事務局を構え活動しました。

各分野の変遷

1 障がい者支援

戦後から高度成長期に障がい者福祉施設・授産施設などの整備が進められてきました。昭和40年代には、障がいのある方の生活訓練や作業訓練の施設が新たに稼働し、拡充が行われています。平成以降の法改正と併行して知的障害者の生活支援やグループホームの設置など、福祉サービスが「施設中心」から在宅・地域生活支援へ展開されました。千歳の市民団体としては1949年から1955年頃に身体障害者福祉協会の千歳分会が発足し、福祉事務所内に事務局が置かれるようになりました。障がい者福祉の地域体制づくりとして、点字図書室や意思疎通支援事業（手話や要約筆記）の拡充につながっています。

2 貧困支援

平成から「次世代育成支援対策推進法」を受けて子育て環境整備が進められ、子どもや家庭の経済的負担を軽減する施策が実施されるようになりました。生活困窮者自立支援法が2015年に施行され、生活に困っている人のための支援が確立化され、現金給付のみならず自立に向けた支援が実施されるようになりました。

社協では、一時的な生活再建費等の貸付制度である生活福祉資金貸付制度や緊急的な支援としての生活応急資金貸付制度などの事業を展開しており、新たに複合的な生活支援体制づくりとして高齢・障がい・子ども・生活困窮などを問わない包括支援体制を構築する「重層的支援体制整備事業」を開始しています。

3 高齢者・地域支援

1979年頃に千歳で初めての特別養護老人ホームが開設されるなど、施設型福祉サービスが充実してきます。千歳市社協では生活支援体制整備事業として、地域サロン（茶屋など）、ガイドマップ作成、脳トレ・趣味活動など、高齢者の社会参加支援や地域のつながりづくりにも取り組んでいます。また、今回実施した「ちとせ市民ふくし講座」やボランティアセンター運営など、住民が主体的に福祉に関わる活動を支援しています。

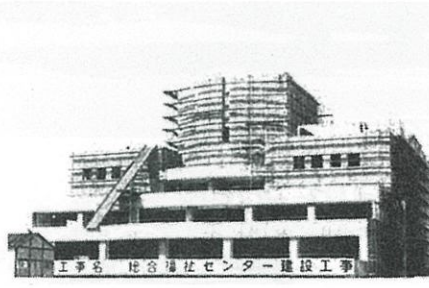
2005年～現在



社協設立後52年の年月を経て、念願の単独での事務所が平成17年10月に開設し、地域福祉活動の要として現在に至ります。

「千歳市社会福祉協議会事務所」時代

1983年～2005年



昭和58年に、本庁舎から、完成したセンター2階へ移転となり、さらに5年後、同センター3階に移り地域福祉の活動を行ってきました。

「千歳市総合福祉センター」時代

障壁(バリア)がなくなるように

手話や点字、要約筆記など誰もが当たり前にならなく、その人らしい生活をおくれるように社会資源の充実、コミュニケーション条例など制度の改善等を図ります。

ボランティアセンターの運営

社会参加促進として、ボランティアに協力して下さっている団体や個人への支援を行い、要請先と双方のニーズが満たされるように運営を目指しています。

団体や関係機関と協働・連携して

市民後見人や手話通訳者、要約筆記、点訳音訳ボランティア、ファミサポ、ヤマセミねっとなど、協力員の方々に支えられて成り立っている事業ばかりです。

共同募金委員会・身体障害者福祉協会・日赤等奉仕団

事務局として会員、団員が社会参加して活動を推進し、よりよい社会を築いていくための支援を実施しています。

社会福祉協議会誕生から歩んできた長いみちのりを経て…

千歳市社協歴史散歩



市民ふくし講座では、千歳市を中心に地理や成り立ちを踏まえながら、おもしろく歴史背景の紹介をされました！その中でちとせのふくしや社協は…

千歳の歴史を踏まえて「千歳の福祉」はどのように発展していったのか、講演を聞いた方がより理解してもらえるように、また、講演を聞いていない方には新たな歴史探訪として興味をもってもらえるように、千歳市社会福祉協議会誕生や千歳市の情勢を反映した福祉の成り立ちをご紹介します。

ちとせ市民ふくし講座を実施

北海道の街並みや歴史を歩きながら紐解く活動が続ける「街歩き研究家」和田哲氏（北海道科学大学客員教授）を講師に、北海道・千歳おもしろ歴史散歩と題して、『千歳の由来』、『日本一低い中央分水界』『オクラホマ景気』など、千歳の街には歩くたびに新しい発見があると、市の地理や成り立ちを踏まえながら、おもしろく歴史背景を話していただきました。

そして、この講座を機会に、皆さんと一緒に社協の歩みを振り返り、次のステップに繋がりたいと思います。

ちとせへの市民の声

千歳の歴史を知り、街への愛着が深まった
地名や地形に隠された意味、アイヌ文化の視点、開拓の歴史など、これまで知らなかった千歳の姿を知ることができました。身近な風景の一つひとつに「なぜ？」があり、知ることによって街の見え方が大きく変わりました。引越してきて良かったと改めて感じ、千歳には誇れるものがたくさんあると実感しました。



引き込まれる語りと豊富な資料
講師の和田先生の話し方や声がとても聴きやすく、語り口もおもしろくてあっという間の時間でした。古地図や古い写真を使った説明は大変興味深く、電車や道路、地名の由来など、日常の疑問が一つひとつ腑に落ちました。ぜひまた講演を開いて、さらに深く千歳の話を知りたいです。



歴史を学び、今と未来を考える
北海道開拓者の苦勞や尽力、地域が支え合ってきた歴史を知り、今の私たちの暮らしがあることを改めて感じました。千歳の自然や産業、交通の成り立ちを学ぶことは、地域づくりを考えることにもつながります。日常の中でも歴史に目を向け、学び続けたいと思いました。



社協前のいぶすき茶屋の様子



やってみよう! ○×何問出来るかな×○
おもしろ歴史クイズ

みんなでクイズをやってみよう!



●1970年の大阪万博を皮切りに国鉄では個人旅行者向けにキャンペーンを実施し旅行者が増えました。その様子から○○族と呼ばれるようになりましたが、どちらでしょう。

- ① えび族 ② カニ族

正解

当時はスーツケース等がなく、大きなリュックを背負って旅行していたので、それが甲羅のようにも見えたため。

▶▶▶ 正解は②

●千歳川や夕張川は平坦な土地が多いため、堤防が決壊し氾濫することが多くありました。その当時の心情から「○○○堤防」と呼ばれていた?

- ① ばんざい ② がんばれ ③ ざんねん

正解

堤防をいくら頑丈にしても、曲がりくねった川はどちらかの岸が氾濫してしまい、その反対岸にいる人たちは、自らへの被害がなく、おもわずばんざいをしてしまうことから。

▶▶▶ 正解は①

●石狩から真駒内を横断する大運河をつくる計画が、農作物や輸送、防衛の観点から発案されました。しかし、ある理由から実際に完成することはありませんでしたが、その理由とは。

- ① 自然環境保護 ② 人手不足 ③ 貨物輸送が主流となった

正解

排水路の工事も実際に進められ完成したが、すでに時代がすすみトラック主体の貨物輸送が主流となっていた。

▶▶▶ 正解は③

社協のSNS



ホームページ



Instagram



フェイスブック



YouTube

第2回

千歳市民ポッチャ大会を開催します!

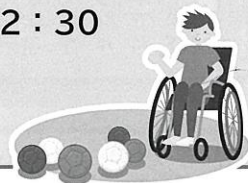
ポッチャとはすべての人が一緒に競い合えるスポーツです。

TEL 0123-27-2526 / FAX 0123-27-2528

日時 令和8年2月1日(日) 10:00~12:30

定員 30名(申込は上記、電話番号へ)

会場 千歳市立北進小中学校



愛情銀行寄付のご紹介(令和7年10月~11月受付分)(順不同・敬称略)

1. 金銭預託

本会への善意の寄付やチャリティイベント、バザーなどの益金をご寄付いただきました。

地域福祉を推進するための貴重な財源として活用させていただきます。

- ひよこ父母の会..... 1,000円
- 第一生命労働組合..... 80,000円
- 千歳市情緒障がい者父母の会..... 2,000円
- 日本女子テニス連盟千歳地区..... 2,500円
- 千歳若手県人会..... 50,390円
- 千歳秋田県人会..... 125,433円
- ゆみなクラブ..... 2,000円

2. 物品預託

- (1) バットボトルキャップ 愛キャップ市民回収運動実行委員会へ
 千歳北陽高校ボランティア部、北斗北町内会、千歳印刷㈱、千歳地域生活支援セ

ンターせらび、安平駐屯地曹友会、千歳市無線赤十字奉仕団、千歳剣道連盟明德館、㈱ダイナム、カルビー㈱、日本女子テニス連盟千歳地区、休暇村支笏湖、ダイダン㈱、みどり台北町内会、日本航空高等学校北海道校、㈱ワイム千歳工場

- (2) リングプル 千歳市社会福祉協議会へ
 北新商店街振興組合、公明党女性局、近藤タ起子、田中史郎

- (3) バットボトルキャップ・リングプル
 住吉北町内会、ANA新千歳空港㈱、富丘4丁目東町内会、江口純夫、千歳市立末広小学校、旭ヶ丘町内会、あじ亭、千歳長都駅前郵便局、松本一光、北海道北広島高等学校、大西明美、天理教祝梅分教会、横永子

- (4) 使用済み切手 神戸のNPO法人「誕生日ありがとう運動本部」へ送ります。
 ㈱ワイム千歳工場、千歳長都駅前郵便局、千歳北陽高校ボランティア部、北海道日野自動車㈱、千歳中央ライオンズクラブ、千歳東郷郵便局、吉田隆治、瀧建設興業㈱

- (5) ポータブルトイレ・杖 千歳市社会福祉協議会へ
 中村由美子、大野正、平賀春雄